

第 11 回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和 5 年 4 月 27 日（木）

18 時～19 時 30 分

会場：須坂市シルキービル 3 階 第 1 ホール

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 新構成員、新事務局員自己紹介

4 会議事項

(1) 「第 10 回須坂新校再編実施計画懇話会」のまとめ

(2) 校地検討会議からの報告

(3) 再編実施基本計画について

学校像・設置課程・学科、活用する校地・校舎、募集開始年度、
想定する募集学級数

5 その他

<次回の予定>

(1) 第 12 回須坂新校再編実施計画懇話会

(日時) 令和 5 年 7 月を予定

(会場) 須坂市生涯学習センターを予定

(内容) 今後の予定について

6 閉 会

須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○は新構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	三木 正夫	須坂市 市長
2		新井 隆司	小布施町 副町長
3		藤沢 敏和	高山村 副村長
4		小林 雅彦	須坂市教育委員会 教育長 (座長)
5	産業界	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6		神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7		久保 正直	アスザック株式会社 代表取締役社長
8	同窓会	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9		霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	学識経験者	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	PTA	坪井 育美	須坂東高等学校PTA 会長
12		○ 柴田 弘彦	須坂創成高等学校PTA 会長
13		○ 赤城 千恵美	上高井郡市PTA連合会 副会長
14	小中学校関係者	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)
15		○ 富沢 孝	上高井校長会 代表 (仁礼小)
16	地域	○ 尾島 信久	長野地域振興局長
17		二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18		大宮 透	元 慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター主任研究員
19	再編対象校	堀内 煌大	須坂東高等学校生徒会 会長
20		関 怜士	須坂東高等学校生徒会 副会長
21		山口 隼	須坂創成高等学校生徒会 会長
22		木村 友香	須坂創成高等学校生徒会 副会長
23		○ 山田 純子	須坂東高等学校長
24		山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
25		羽山 功	須坂創成高等学校長
26		○ 市村 宣幸	須坂創成高等学校 教諭

事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
宮下 由夫	教頭・副事務局長	○ 宮川 敏晃	教頭・事務局長	○ 柳澤 弘蔵	主幹指導主事
嶋田 順一		○ 市村 宣幸		有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
酒井 健次		柳澤 亘		○ 井出 敦	主任指導主事 (須坂新校副担当)
山岸 暢		○ 春原 真			
高坂 亨		○ 河野 健一			

第10回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和5年3月13日(月) 18時00分～19時30分		
場所	須坂市生涯学習センター 3階 ホール		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 藤沢 敏和, 小林 雅彦, 春原 博, 神戸 佳代, 久保 正直, 半田 志郎, 霜田 剛, 坪井 育美, 鈴木 勝, 島田 千春, 坪井 扶司夫, 新井 孝之, 中坪 成海, 二ノ宮 邦彦, 堀内 煌大, 関 怜士, 山口 隼, 木村 友香, 宮尾 悟良, 山岸 暢, 羽山 功, 小林 英司 (以上24名)		
欠席 (敬称略)	浅井 洋子, 大宮 透	傍聴者	5名
事務局	須坂東高校	宮下 教頭(副事務局長), 嶋田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	峯村 教頭(事務局長), 小林 教諭, 柳澤 教諭, 山口 教諭, 辻 教諭	
	県教育委員会	山岸 主幹指導主事, 中島 主任指導主事, 有坂 主任指導主事	
当日資料	次第, 第9回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案), デジタル教育に係る意見聴取の結果, 学びのイメージ(修正原案), ここまでに出された意見		

会議事項

- (1) 第9回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ(案)と意見聴取の報告
- (2) 学びのイメージ(修正原案)の説明
- (3) 学びのイメージ(修正原案)に関する討議

構成員から出された主な意見(要旨) (⇒県教委回答)

<学びのイメージの修正原案について>

- デジタルなど専門的なものを学んでいくときに、専門的な知識を持っている方が教えるという形は可能か。地域の中にもそれぞれ力を持った方がいる。そういった方にもどんどん入ってもらえればいいと思う。
⇒昭和63年に創設された、特別免許状と特別非常勤講師という制度がある。
- 専門科と普通科が一緒になることを踏まえると、実際に色々な場を見て、それぞれのところで選択するという選択の場を持てるということはいいこと。
- 地域連携コーディネーターなど新しい取組について、県教委だけでなく、住民の意識、公的機関の意識、企業の皆さんの意識を醸成していくことが、須坂新校が上手くいく大事な要素だと感じる。
- 新校開校はまだ先だが、ICT化を進めた状態になって開校を迎えられたらよいと思う。
- 新校の学びでは「実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開」というものが大事。視覚的にもこの一文を最上位にもって行ってもらいたい。
- 専門科と普通科の連携について、円のような図にすれば、2つが融合して新しいものが出てくるということがイメージできるのではないか。
(座長まとめ) 意見が出し尽くされたので学びのイメージをまとめたい。→構成員承認
事務局で今回出された意見を踏まえて微修正をしてもらいたい。
(校地検討部会長より) 学びのイメージが固まったので校地検討部会を再開したい。
(県教委事務局より) 懇話会で議論した学びのイメージを基に、責任をもって新校の学校像をふくめた再編実施基本計画を策定していく。

その他

【次回】

日時：令和5年4月の実施を予定
会場：須坂市生涯学習センターを予定
内容：再編実施基本計画に係る意見交換

《実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校》

育てたい生徒

- 探究的な学びをとおして、課題発見・解決能力を育み、自分の未来をデザインできる生徒
- 学びあいをとおして、他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者とつながり、新たな価値を生み出し、より良い社会実現のために学び続ける生徒

新校での学びの特徴

- 専門科の学びを保証したうえで、学科・学年を超えた学びと個別最適な学びを実現する単位制を導入
- 地域を学びの場とし、地域と学ぶ探究活動
- 専門科と普通科の連携により新しい発想や価値を創造
- 学びと社会、学びと自分の生き方をつなぐキャリア学習
- 生徒の主体性を育む自主活動（生徒会活動・部活動）の充実

専門科（総合技術）



普通科（みらいデザイン科（仮称））

実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開

各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施

情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、制限なしに ICT を利活用

- ・各専門科（農業科・商業科・工業科）の科目を十分に履修し、専門性を確保
- ・学校設定科目「産業基礎」で農業・工業・商業の枠を超えて産業を学ぶ
- ・生徒の進路、興味関心にあわせたコース選択制で専門性を深化させ、進路を実現
- ・他の専門教科を履修し、専門性を強化
(例) 農業科の生徒が商業科のマーケティングを履修し農業経営に活かす

- ・学校設定科目「みらいデザイン（仮称）」と「総合的な探究の時間」で、校内・校外でのすべての学びを探究活動に統合
- ・学校を飛び出してのアクティブな探究活動を可能にする教育課程
- ・探究活動の成果を「総合型選抜試験」に活用する進路支援
- ・専門科目を含めた履修による幅広い進路選択の実現

＜専門科と普通科、専門科間の連携により新たな価値を発想＞

専門科の学びで得た農業・工業・商業・環境などの視点

探究活動で得た芸術・歴史・福祉・国際などの視点

学びのあり方

- 単位制の利点を活かした学びを展開
他の単位制高校の授業が履修可能
校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、国際交流など）
- 全学科でデュアルシステムを実施（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、出前講座、公開講座など）

地域との関わり

地域の人々と共に学び、地域の未来を共に創る

- 企業、自治体、大学、研究機関、関連団体等で構成する連携会議の設置
- 学校と地域をつなぐ「地域連携コーディネーター」の常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

1 再編統合対象校

野沢北高等学校、野沢南高等学校

2 募集開始（開校）年度

令和 11 年度

今後両校の学校規模の縮小化が避けられない状況の中、できるだけ早期の統合が必要であること、施設の整備期間等を考慮し、令和 11 年度を新校の募集開始年度とする。

3 活用する校地・校舎

野沢北高等学校

「新校で構想する学び」の実現を第一に考え、敷地（校地）の広さと周辺の道路環境を考慮し、野沢北高校を新校の校地校舎として活用する。

4 設置課程・学科及び開校時に想定する募集学級数

全日制課程 学際領域に関する学科 8 学級程度

定時制課程 普通科 1 学級

※学科の名称は、今後編成する教育課程等に基づき、開校前年度に決定する。

※新校開校時の募集学級数は、毎年度定める「長野県立高等学校生徒募集定員」により開校前年度に決定する。

設置学科については、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（高等学校設置基準及び高等学校学習指導要領の一部改正）により設置可能となった「新たな普通科」の 1 つである、学際領域に関する学科[※]を設置し、新たな学びに対応した単位制を導入する。

佐久地域の中学校卒業予定者数の推移や現在の募集学級数から、新校の開校年度には 8 学級程度が想定される。

東信地域全体の配置状況を考慮し、定時制課程を設置する。

注) 現代的な諸課題のうち、SDGs の実現や Society5.0 の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科。(学際＝研究などが異なる分野にまたがって関わること)

5 学びのイメージ

別紙のとおり

地域と大学、研究機関等と協働した探究を核とし、「夢のある未来社会を地域と共創する知の探究校」を構想する。

6 施設整備

新校の学びに必要な施設整備及び、高校施設の著しい老朽化と社会や学びの変化に対応し質的向上を図っていく。

・施設整備に要する期間 6 年程度を想定

夢のある未来社会を地域と共創する「知」の探究校

目指す学校像

- 高い志の進路を実現し、地域・日本・世界に貢献する人を育む
- 新時代を切り拓く「創造力」と「探究心」を育む
- 他者との協働により、多様な価値観を共有し、豊かな人間性を育む

学際領域に関する学科

確かな学力と教養を獲得する単位制

- 文理融合のリベラルアーツ的な学び
- 探究を核とした学び
- 大学・研究機関・企業・自治体などと協働した学び



1年次：必履修科目や多彩な校外学習等により探究の基礎・基本を習得

2～3年次：単位制の自由度を最大限活用して「自らの学びをデザイン」

理数科学選択群



人文科学選択群

- ◇ 選択群を中心に、個々の興味関心により主体的に科目選択
- ◇ 学校内外の自主的・創造的な活動による単位取得
海外留学、資格取得、大学の講義を受講、地元企業との共同研究 など
- ◇ 多様な地域資源を活用したグローバルな探究活動
- ◇ 生徒の活動に伴走するアカデミックサポーター（OB・OG）との連携
- ☆ 医学部・デジタル系の大学や海外の大学への進学など、生徒が希望する多様な進路実現を目指す



佐久エリア共学共創コンソーシアム
多様な人々と協働し、地域の未来社会を共創するコミュニティ



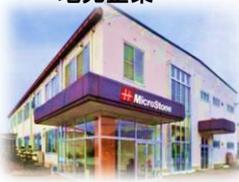
大学



医療機関



地元企業



自治体



研究機関



◆定時制課程 普通科（単位制）：3年間での卒業や全日制の授業を履修可能とする新システム◆

(1) 新校の学校像について

実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校

生徒像
育てたい

- 探究的な学びにより身に付けた力で自分の未来を積極的にデザインできる生徒
- 他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者をつなぎ、新しい価値を生み出し、よりよい社会実現のために学び続ける生徒

学校像
目指す

- 地域をフィールドとした探究的な学びをとおして、課題発見解決能力を育む
- 学科や学年を超えた協働的な学びをとおして、キャリアデザイン力を育む
- 地域に開かれた学びを推進し、主体的に未来を創造し続けるための力を育む

須坂新校の取組

- 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、海外留学など）
- 全学科でのデュアルシステム（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、地域への公開講座など）
- 探究の学びを深化させる「地域連携コーディネーター」が校内に常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

地域の人々と共に学び、地域の未来を共に創る
コミュニティデザインハイスクール

- ◆ 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
- ◆ 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施
- ◆ 情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、ICT を積極的に利活用

農業科 — 商業科 — 工業科 — **みらいデザイン科**（仮称）

単位制

- 学科の枠を超え、他科の専門科目も履修して自身の学びを深化
- 学校を飛び出してのアクティブな探究活動を学びの中心に

連携

- コミュニティデザインを研究する国内外の大学との連携
- 地域を学ぶ国内外の高校生と交流

4 学科の連携で地域の未来づくりに参画



地域の方々との共同研究

須高地域共学共創コンソーシアム

新校が生涯学習の拠点

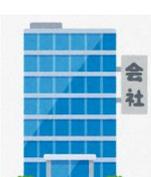
大学・専門学校

医療・福祉機関

地元企業・商工会

自治体

研究機関



旧第2通学区の中学校卒業予定者数及び募集学級数の推移と予測

	2017年 H29	2018年 H30	2019年 R1	2020年 R2	2021年 R3 現高3	2022年 R4 現高2	2023年 R5 現高1	2024年 R6 現中3	2025年 R7 現中2	2026年 R8 現中1	2027年 R9 現小6	2028年 R10 現小5	2029年 R11 現小4	2030年 R12 現小3
卒業予定者数	1,290	1,188	1,165	1,059	1,031	1,084	1,084	1,033	997	1,011	1,020	972	981	956
前年度比増減		-102	-23	-106	-28	53	0	-51	-36	14	9	-48	9	-25
募集学級数計	31	29	29	27	26	27	27						24?	
中野立志館	6	6	6	5	5	5	5							
	19.4%	20.7%	20.7%	18.5%	19.2%	18.5%	18.5%							
中野西	6	5	5	5	4	5	5							
	19.4%	17.2%	17.2%	18.5%	15.4%	18.5%	18.5%							
須坂	6	6	6	6	6	6	6							
	19.4%	20.7%	20.7%	22.2%	23.1%	22.2%	22.2%							
須坂東 須坂創成	13	12	12	11	11	11	11							
	41.9%	41.4%	41.4%	40.7%	42.3%	40.7%	40.7%							

生徒数112人減少 ⇒ 【予測】3クラス減

約40%

旧第3通学区の中学校卒業予定者数及び募集学級数の推移と予測

	2017年 H29	2018年 H30	2019年 R1	2020年 R2	2021年 R3 現高3	2022年 R4 現高2	2023年 R5 現高1	2024年 R6 現中3	2025年 R7 現中2	2026年 R8 現中1	2027年 R9 現小6	2028年 R10 現小5	2029年 R11 現小4	2030年 R12 現小3
卒業予定者数	2,686	2,754	2,582	2,567	2,378	2,459	2,461	2,406	2,336	2,320	2,175	2,125	2,016	2,044
前年度比増減		68	-172	-15	-189	81	2	-55	-70	-16	-145	-50	-109	28

生徒数390人減少 ⇒ 旧2通学区への影響

旧第2通学区と旧第3通学区の生徒流出入

	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)
旧第2通学区から旧第3通学区へ	138	125	135
旧第3通学区から旧第2通学区へ	325	295	326